

第105回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	満期保有目的債券
売買目的有価証券	未収入金	未払費用	機械
支払手形	未払金	機械減価償却累計額	未処分利益
資本準備金	売掛金	買掛金	仕入
別途積立金	売上	固定資産売却損	有価証券売却益
固定資産売却益	役員報酬	有価証券評価損	減価償却費
有価証券売却損			

- 品川商事株式会社は、田村商店へ商品 ¥ 2,000,000 を売り渡し、代金のうち ¥ 800,000 は、遠藤商会振出し・田村商店受取りの約束手形を裏書譲渡され、残額は田村商店振出しの小切手を受け取った。
- 畠山株式会社は、3回に分けて、売買目的で取得していた上場株式のうち 20,000 株を、@ ¥ 300 で売却し、代金は4日後に受け取ることにした。第1回目(10,000株、取得価額 @ ¥ 242)および第2回目(8,000株、取得価額 @ ¥ 260)は、前期中に取得したものであり、前期末に @ ¥ 290 で評価替えされ、当期首に取得価額に振り戻しておく方法(洗替法)により処理されている。第3回目(12,000株、取得価額 @ ¥ 275)は、今期中に取得したものである。株式の払出単価の計算は移動平均法によっている。
- (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
- 徳川商店は、掛代金の支払いのために作成した小切手 ¥ 100,000 と、備品購入代金の支払いのために作成した小切手 ¥ 50,000 について、すでに当座預金の減額として処理していたが、決算日現在、未渡しであることが判明した。
- 真田商店(年1回、12月末決算)は、平成20年6月30日、機械を ¥ 1,000,000 で売却し、代金のうち2分の1を小切手で受け取り、残額は翌月の20日に受け取ることにした。この機械は平成16年5月1日に購入(購入代価: ¥ 2,300,000、据付費用: ¥ 100,000)した資産であり、残存価額は取得原価の10%、耐用年数は8年、償却方法は定額法、記帳方法は直接法によっている。なお、決算日の翌月から売却した月までの減価償却費は、月割計算するものとする。